

千葉県がんセンター婦人科で診療を受けられる皆様へ

千葉県がんセンター婦人科ではコルポスコープ検査（子宮頸部表面を観察する内視鏡検査）や同時に行う子宮頸部生検（子宮頸部組織検査）を施行する際、3%酢酸、50%過クロール鉄をそれぞれコルポスコープ検査前処置薬および子宮頸部組織検査後処置薬として使用してまいりました。今後はセンターの方針により下記のごとく患者さんへ説明の上、文書にて同意をいただいた方のみを使用できることになりました。つきましては当科初診の患者さんにおかれましては事前にお渡しいたしました説明文書をお読みの上、御不明な点は遠慮なく担当医にお尋ねください。同意いただける方は日付と御署名を記載の上、担当医にお渡しください。また、同意いただけない方におかれましては、その旨を担当医へお伝えください。また、すでに当科に受診歴のある患者さんにおかれましては下記説明をお読みいただき、御不明な点があれば担当医までお尋ねください。何卒宜しくお願い申し上げます。

平成 29 年 11 月 千葉県がんセンター婦人科部長 田中尚武

婦人科診察（コルポスコープ下子宮頸部組織診）時の「3%酢酸」「50%過クロール鉄」の使用について

- コルポスコープ検査前処置薬（3%酢酸）および子宮頸部組織検査後処置薬（50%過クロール鉄）として使用の理由について

子宮頸部病変を疑う場合、コルポスコープ（子宮頸部を拡大し観察する内視鏡）にて子宮頸部表面を観察します。その際病変の拡大を明瞭にし、性状を把握するため3%酢酸を塗布し加工することで、頸部病変の診断が可能になります。さらに、異常所見のある部分を切除鉗子にて小さく切除し、病理組織診断に供することで確定診断を得ることができます。その際、創部よりの出血に対し50%過クロール鉄を創部に塗布し薬物焼灼・止血を図ります。この処置により止血しない場合には、アルト原末（アルギン酸ナトリウム）を出血部に散布し、場合によりタンポンで圧迫止血を試みます。

3%酢酸は診断補助薬などとして検査用に市販されているわけではなく、当センター薬剤部にて調整しております。3%酢酸による処置は我が国において婦人科の通常診療としてごく一般的に行われている検査前処置です。また検査後の出血に対し使用される50%過クロール鉄も、止血剤として保険収載されているわけではなく、当センター薬剤部で調整しています。その止血効果と安全性に問題のないことを多くの婦人科医は経験上認識しています。

- 予測される効果及び副作用

3%酢酸はコルポスコープ検査時に使用する薬剤であり、酢酸加工により病変部の観察が容易にかつ正確にでき。適正な部位での組織診を行える利点があります。酢酸を使わずルポスコープを行って組織診をおこなった場合、病変を見落とし誤った診断につながる可能性があります。また、酢酸加工による副作用の報告もあり

ません。

50%過クロール鉄を用いた止血では大きな病変がある方以外では簡便に、かつほぼ確実に止血効果がえられます。創部に塗布するため多少、しみると感じられる方がいます。検査後、(帰宅後、夜間等) 50%過クロール鉄を使用しなかったことによる子宮頸部にある創部からの不快、かつ不安を伴う不正出血の頻度を大幅に減少させることができます

□ この薬剤を使用しない場合の診断・処置方法

3%酢酸は検査前の処置薬であり代替えとなる診断前処置薬はありません。酢酸加工せず組織検査を行うことはできますが、もっとも進行した病変を見逃す可能性はあります。50%過クロール鉄に代わる治療として、アルト原末散布による止血方法があります。本薬剤は頸部組織診時の出血に保険適応があります。止血の簡便性では50%過クロール鉄塗布が勝り、これを第一選択として用いることが多く、本法で止血困難な場合にアルト原末散布を行います。50%過クロール鉄塗布を希望されない方には、出血に対しはじめてからアルト原末を使用することは可能です。

□ 費用負担について

3%酢酸、50%過クロール鉄による負担はありません
止血の際にアルト原末を用いた場合は有償(保険診療扱い)となります

□ 健康被害が生じた場合の治療について

有害事象の報告はありませんが、なにか変わったことがあればお申し出ください。
保険診療に則り適正に対処いたします

□ 婦人科責任者、担当医の連絡先

平日日中：
千葉県がんセンター 婦人科 外来
TEL：(043)264-5431 (代表) (内線 3270)
婦人科担当医。責任者：田中尚武、
担当医：鈴鹿清美、海老沢桂子、井尻美輪、糸井瑞恵、後藤裕磨、草西多香子

夜間、土日、休日：
がんセンター代表に電話いただき、当直師長が初期対応の上、婦人科医当番医と連絡をとります。